

職人たち



皆さんは、市内にもものづくりを行う「製造業者」が数多くあることを知っていますか？ 市内の製造業者の中には、素晴らしい技術や伝統を持っていたり、全国や世界で活躍している企業があります。

今回の特集では、ふるさと納税の返礼品として協力いただいている企業のいくつかをピックアップし、筑紫野市が全国や世界に誇るものづくりの企業やそこに携わる職人たちを紹介します。

問 秘書広報課

日本における製造業

「製造業」は、「新製品の製造加工を行い、卸売する事業所」と定義されており、素材や材料から新しいものを作り出す・生み出すことを仕事とする事業所のことを指します。

経済産業省の発表によると、令和3年時点で製造業はGDP(国内総生産)の約2割を占め、日本経済の中心的な産業となっています。

筑紫野市のものでん

製造業には、金属加工や繊維、食品などさまざまな職種が存在しますが、販売相手が企業だけの事業所もあるため、私たちがその存在や技術力を知る機会が少ないかもしれません。

総務省統計局が発表している事業所や企業の経済活動調査によると、令和3年の筑紫野市内の製造業者は50社あります。これらの中には、日本を代表するような技術や伝統を持つ企業や、全国や世界を相手に製品を販売している企業があります。

「ものづくり」の現場で磨かれる技、受け継がれる思い。市の魅力あふれる製造業と職人をご紹介します。



# 株式会社三松

場 岡田三丁目 10 番 9 号 ☎ (926) 4711

株式会社三松(以下、三松)は、金属加工をベースとした各種機械装置の組み立てなどを行う製造業者です。

創業当初、板金加工から始まった三松は、特に薄型の板金加工を得意として発展してきました。現在は板金加工はもちろんのこと、他企業からの多種多様な部品の少数製造も受

注。設計から板金、溶接、組立、塗装と全ての工程を自社内で完結して製造できる技術と設備を強みに、さまざまな業種や事業所を相手に活躍を見せています。

社員教育では「一人、三役一芸」という考えを推奨しており、「一人でも三種類の業務をできて、かつ誰にも負けない秀でた技術を持つように」という思いが込められています。

そんな三松は、技術教育や技術継承に力を入れており、「三松大学」と称して、独自技術やノウハウを体系化し、教育を行っています。また、この三松大学は技術教育プログラムのサービスとして社外の人たちへも提供をしています。

最近では、三松独自の技術を生かし、より精密な板金加工に加え、半導体・通信分野における機器製造や技術開発、九州大学との産学連携による医療機器分野の研究など新たな分野への挑戦を行っています。

## 工場見学会を実施



6月2日(金)、3日(土)、工場見学会を実施し企業関係者や親子連れなど多くの人々が参加しました。三松の技術力を見ることができる機会となりました。

## こだわりの逸品

メガネ ハンガー サークル  
megane Hanger Circle



スタイリッシュなメガネハンガー。「金属をもっと生活のシーンへ」をテーマに、三松の金属加工技術とデザイナーによって作られたブランド商品の1つです。

## 職人インタビュー



酒井 哲也さん

岸川 勇介さん

(酒井さん)これまで失敗することもありましたが、経験を積み、常に考えてやってきた結果、他の人ではできないような金属加工の「曲げ」技術が身につきました。この技術は他社も含めて誰にも負けないと思っています。

(岸川さん)三松の板金加工精度はトップクラスで、全国でも数社しかできないような加工技術を持っています。また、加工の「曲げ」という分野での機器稼働率は全国121社中の4位と高い順位です。多品種・少数生産という点を考えるとお応力の凄さがわかります。

三松の製品は身近なところでも活躍していて、市内の駅のディスプレイなどにも使われています。

# にしむらおりものかぶしきがいしや 西村織物株式会社

場 紫七丁目3番5号 ☎ (9222)7038

西村織物株式会社(以下、西村織物)は、文久元(1861)年に創業し、160年以上の歴史を持つ、博多織最古の織元です。

織物は、最初の「糸染め」という染めあげから「製織(せいしょく)」という織り込みまで、多くの工程を経て作られますが、どの工程一つとつてみても職人の技が光ります。国家資格に、伝統工芸品の製造で高い技術力を持つ人だけが認定される伝統工芸士というものがありません。西村織物の従業員は5人に1人がこの伝統工芸士。伝統を継承し、ものを作り上げる技術力はまさに折り紙付きです。

西村織物で作られる帯は全国でも有名で、総理大臣からの表彰をはじめ、さまざまな表彰を受けています。

また、落語界の「真打」と呼ばれる最上位の落語家が身に付けている帯は、ほとんどが西村織物の製品。日曜日の国民的お笑い番組に出演する落語家たちがつけている帯にも西村織

物の製品が多く見られます。

最近では、西村織物の博多織は帯だけにとどまることなく、ファッショナアイテムや椅子などの家具、ホテルのラグジュアリーな壁紙など、活用の幅が広がっています。



## 伝統の技術に触れる



工場敷地内にはギャラリー(博多織献上館)が併設されています。西村織物の技術が詰まった帯や小物などを見て、購入することもできます。

## こだわりの逸品

### ダブルファスナーバッグ



西村織物の技術が詰まった博多織がワンポイントに入ったショルダーバッグです。

収納にも長け、日常使いとしても便利の良いバッグです。

## 職人インタビュー



代表取締役社長  
西村 聡一郎さん

伝統工芸士  
作本 義一さん

(作本さん)究極のものを、とこだわりの持って作っていますが、絹糸などの天然素材を扱っているので完成形というものはありません。常に勉強し、その都度、新しい挑戦をしています。実際に使っていたら、作っているのを見ることが、感動しますし、作っている当時のことを思い出しますね。

(西村さん)西村織物はいろいろと新しい挑戦を行っています。従業員からもアイデアを募り、面白いものはきちんと計画を立て、事業として実施しています。伝統産業や職人の技術を生かして新しい製品や現代の製品を作る、「最古にして先端」という思いを持ってやっています。



# 梅薫醸造株式会社

山口1927番地2 ☎(922)8800

梅薫醸造株式会社(以下、梅薫醸造)は、昭和32年に創業した食品製造会社です。製造酢をはじめ、醤油、ドレッシングなど多くの調味料を製造しています。現在は、山口と朝倉市に工場がありますが、多くの製品のベースとなる酢は、全て山口の工場で作製しています。

創業当時、さまざまな工場で醸造

知識を学んだ先代社長が編み出したという独自の醸造酢の製法は、現在も受け継がれています。

他社の醸造酢の多くが、原材料となる米は加工されたものを使っている一方で、梅薫醸造では加工を行わずにそのままのものを使っているため、素材そのままの旨味が生かされています。醸造期間についても、発酵から熟成まで3カ月という長い時間と手間をかけることも梅薫醸造のこだわりです。

酢の作製にはきれいな水は欠かせないそうで、山口川のきれいな水も酢作りの大切な要素の1つと話をしています。

梅薫醸造のこだわりの製品を求めて、山口の直売場まで遠方から買いに来るお客さんは多いそうです。また、工場で作られる酢は全国や海外からの需要も高く、毎年、中国からは数千本もの米酢の発注が入ってくるなど、その品質が認められています。

## 工場には併設の直売場も



山口工場併設の直売場には、「かけぼん」の他に、ドレッシング、飲む酢などふるさと納税の人気商品を買うことができます。

## こだわりの逸品

### かけぼん



柚子とカツオの香りが広がるポン酢です。お鍋料理にはもちろんのこと、サラダなどのアクセントにも。梅薫醸造の中での一番の売れ筋商品です。

## 職人インタビュー



社長 嶋 晴一さん

窪山 航真さん

(嶋さん)食品の発酵は同じように作っているようでも、外気との差や季節などによって味は変わってきます。そういった中で、仕込み中の様子を見て調整を行うというのが大切となってきます。

製造方法のマニュアル化なども話には上がるのですが、この調整というものが、状況によって異なり、繊細なものなので、経験などによって身につけるしかないところがあるのです。

(窪山さん)同じように作っていても違いが生まれてくる、そこにもものづくりの面白さを感じています。そういった中で、良いものを作り、お客さんに喜んで買っていたたく・美味しく食べてもらう、それこそが何よりの喜びですし、ものづくりの醍醐味です。